

1. 自己紹介

こんにちは。経済学研究科博士前期課程2年の佐藤です。

学部の際は経済学部経済学科に所属していました。

趣味は読書や映画鑑賞です。最近は「窓辺にて」という映画が面白かったです。

社会にある格差について関心があり、最終的に卒業論文は労働に関するものになりました。労働には様々な格差があり、それは生活に直結しているので、妥当だと思います。

現在は主に労働組合で働いている人について研究しています。

2. 卒論テーマ・タイトル・概要

卒論タイトル「高卒就職者における課題の考察—求人に焦点をあてて—」

論文では、高卒で就職を行う学生について、就職先と教育課程にギャップがあるところに着目し、その理由を、学生の希望するような求人票がそもそも少ないという点に求めました。例えば、工業系の高校を卒業しているのに、まったく工業とは関係のない企業に就職するといったようなことですが、この理由を、高卒を待遇の良い条件で募集するメーカーが少ないということに求めるといったことです。前提として、高卒者の就職は大卒者と比較して早期離職率が高いといった問題が指摘されてきており、そういった課題に対するアプローチの一つになります。すなわち、高卒で就職した人が早期に離職してしまう問題を、就職先の選択肢の少なさに求めています。

分量は27p 27680文字でした。量的には多くもなく、少なくもないと思います。私はテーマ決めに難航したこともあり、11月の半ばくらいに、テーマを決めました。そこから書き始めて、12月の中ごろに終わったため、製作期間としては1カ月程度です。

3. 完成までのスケジュール

時期	内容
3年生 春休み	卒論について考え始める, おおよその方向性や学問領域を絞る
4年生 4~6月	就活のため、卒業論文はそこまで動かない時期
4年生 7~8月	就活が大体終わり、具体的な方向性などを決め、先行研究を読む時期
4年生 9~10月	テーマ決めが終わり、構成を作って出す(中間発表)
4年生 11月	テーマを論文題目として提出し、実際に書いていく時期 書いては教官に赤をもらいに行く作業を繰り返す
4年生 12月	完成。締切は25日前後(土日祝に25が入れば休日明けが提出日)



4. ポイント・感想・反省点

■ ポイント

自分にとって少しでも関心のあることをやったほうが楽しいと思います。
先行研究と自身の研究の違いを説明できると説得力が生まれます。

■ 感想

書いていく作業は大変ではありませんが、テーマ決めが難航しました。
終わってみるとあっさりしており、イメージしていたほどキツイものではありませんでした。

■ 反省点

あまり関心がないテーマを無理やりやってしまったため、先行研究を探したり、調べていく作業が苦痛になってしまいました。

5. 活用したツール、おすすめの資料

おすすめのツール	説明・理由
Google スカラー	論文が検索できるサービス
図書館の本	本の方が論文よりも体系的に書かれていることが多い。
フリマアプリ	欲しい本が安く手に入る可能性がある。中古市場にない専門書が投げ売られていることがある。
Amazon・楽天	著名な本であれば、中古で安く手に入る可能性が高い。
Google ドキュメント	クラウドサービス。先行研究のメモをここに置いておくと、後から見やすい。
卒論の書き方を紹介した本	読めばよかったと後悔したのでおすすめ。

6. 後輩へのメッセージ

卒論は私の経験して思う限りでは、自己満足です。やりたければ突き詰めればいいし、卒業さえできれば細かい問わないというなら、それに沿ってある程度楽もできます。そのため、卒論そのものに不安を抱く必要はないと思います。そして、自分で決められることなので、卒論を過酷な試練でなく、楽しい経験の一つにすることも十分可能だと思います。

アドバイスとしては、先生と多く話してみることをお勧めします。自分のしたいこと、またはしたくないことを具体的に伝えることで、より納得のいく卒業論文になるとと思います。これを読んだ貴方が納得のいく卒業論文が書けることを祈っています。